



上 京 史蹟と文化

美を巡る

茶道資料館（上京区堀川通寺之内上ル）

令和3年新春展「裏千家の茶室建築」が1月7日に始まった。千家3代目の元伯宗旦（1578～1658）は不審庵を三男の江岑宗左に譲つて隠居。四男仙叟宗室と一緒に敷地内に新たに建てた茶室に移り住んだ。この時の茶室が今日庵で、裏千家の象徴といえる。宗旦が再び隠居する際に新たに造った庵を又隠といい、又隠居するという意味から命名したことに因む。そして書院造りで一回り大きい寒雲亭。今日庵は一畳台田、又隠は利休が造った四畳半と同様の侘び本位の究極の空間であるのに対し、寒雲亭は八畳に一間の本床、一畳の控えの間と付書院を持つている。いずれも宗旦の好みですべてを宗室に譲つたことにより裏千家が成立した。

これら二つの茶室を含む裏千家の住宅群は「江戸時代以来の茶匠の住宅としての形態をよく保持している」ことから、1976（昭和51）年5月に国の重要文化財（建造物）指定を受け、保存が図られてきた。昨年夏、8年がかりの大規模な保存修理工事が竣工したのを記念した



裏千家茶室のジオラマ

のが「一重要文化財裏千家住宅及び茶室保存修理工事竣工記念」とサブタイトルを付けた今回の新春展。今日庵や又隠に因んだ掛物、寒雲亭を飾つた狩野探幽（かのうたんゆう）（1602～74）筆と伝わる襖絵（前期、2月14日まで）や11代玄々斎筆の襖絵（後期、2月17日～3月31日）、江戸時代の「今日庵十氏惣図画模」「利休居士二百回茶会記」などの文献史料、歴代家元が屋敷内の竹木を材料に制作した茶道具、屋敷内の上京遺跡から出土した志野向付など88点を通して、裏千家が辿った歩みを分かりやすく展示している。

裏千家のジオラマを前に、「ここが利休居士を祀る御祖堂。今日庵と又隠、寒雲亭の大きさの違いが良く分かりますね」と解説してくれたのが茶道資料館副館長の伊住禮次朗さん。「展示を通じて茶道に関心を持つ人たちが増えてくれれば」と期待をかける。

展示室に入ると掛け物の「今日」「邂逅比丘不期明日」と黒楽「今日庵」文字文茶碗など、宗旦にちなんだ逸品のいくつかが目に飛び込んでくる。「懶急比丘不期明日」清巖（かいじゆうひきふきせき）「邂逅比丘不期明日」宗旦

宗旦が隠居所として建てた茶室の席披きの日、禪の師であり茶室の命名を願つた大徳寺の和尚清巖（せいがん）（1588～1661）を主客として招いたのだが、約束の時が過ぎても一向にやつて来ない。宗旦は他に所用があり、「明日もう一度来ていただきたい」と言い残して外出した。間もなくやって来た清巖は宗旦からの伝言を聞き、茶室の腰



第一陳列室



第二陳列室

張りに「懈怠比丘」云々と書き残した。懈怠は急け者、比丘は僧侶を指し、「急け者の僧である私は、明日来いと言われても約束出来かねる」の意味になる。

帰宅してこれを見た宗旦は、「寸先は分からぬ人生に明日の約束を求めたことを恥じ入り、懈怠を邂逅（巡りあつ）と置き換えた書を認め、「今日今日といひてその日を轟らしめる 明日の命は兎にも角にも」という歌を呈した。そして、明日があると無駄にせず今日の一日を大切に生きることを改めて誓つて、茶室を「今日庵」と名付けた。掛物

に見入つていると清嚴と宗旦のやり取りが頭に浮かんでくるようだ。

ひと際存在感があるのが「今日庵」の文字が刻まれた樂家3代目の道入（1599～1656）作の黒茶碗。道入は黒釉茶碗に妙技を振るつた名匠で、宗旦より20年余り後に生まれたが、17世紀前半に活動したほぼ同世代人だ。

「道入よ、そなたの黒茶碗に」「今日庵」の文字を入れてくれぬか
〔宗匠様、わかりました〕

などのやりとりがあつたのではと想像するだけで一人への親しみがぐんと深まる。

同館ではこれまでにも裏千家に関するさまざまな特別展を催してきた。例えば2008（平成20）年の春季特別展「裏千家所蔵絵画展－屏風を中心にして」では土佐光起（1617～91）の代表作「朝儀図屏風」、英一蝶（1652～1724）の「琴棋书画図」、また今回も出展された探幽の襖絵など、江戸期の日本を代表する画家の名作を展示している。

一方、4月17日からは8代家元又玄齋一燈（1719～71）の250年忌を記念した春季特別展「又玄齋一燈とその時代」が開催される。また2階展小室内に「又隠」の写しが設けられている。

こうした豊富な資料に恵まれる同館に求められるのが常設展の開設。国立京都博物館をはじめ多くの博物館・美術館は常設展示を欠かすことがない。裏千家今日庵に伝わる茶道具を常に展示することで、常に茶道に対する関心を高められるのではないか。「常設展は念願で何とか実現したい」と淡交会運営企画部長の古谷善博さん。目標は2年後とか。その日を期待して待ちたい。（福井 和雄）

【茶道資料館】

わび茶の創始者千利休（1522～91）から4代目の仙叟宗室の代に成立して、今日に続く茶道の裏千家。鵬雲斎千玄室大宗匠（1923～）が1964（昭和39）年10月に第15代家元を継いで宗室を襲名した後、歴代が収集した茶道に関する図書・文書を収集・保存するため69（昭和44）年に設けた「今日庵文庫」と、茶道美術を展示・普及するため79（昭和54）年、博物館法に基づき開館した「茶道資料館」。この2つを包括するのが裏千家センターにある「一般財団法人今日庵 茶道総合資料館」。文庫では図書室を公開し、紀要『茶道文化研究』を刊行、資料館では年3～4回展覧会を開催、立札式のお茶席で入館者に有料で呈茶（事前予約制・平日限定）を行っている。館長は千玄室大宗匠。



今日庵文庫



呈茶体験

ぶらり上京

近世初頭に花開いた

町衆文化と法華宗ネットワーク

上京探訪シナリオ研究会 豊田 博一

応仁・文明の乱（1467年）、天文法華の乱（1536年）、織田信長による上京焼き討ち（1573年）。室町時代中期以降、京都はその都度、荒廃と復興を繰り返してきました。

この時代、京都は復興の過程で国内の経済流通規模の拡大を背景として、新興の商工業者を中心とする「町衆」と呼ばれる富裕な階層を生み出しました。彼らはその財力を背景に、それまでの權門が占有していた様々な文化を取り込み、織田、豊臣、徳川という近世統一權力とも深い関わりを持ちなうようになります。

本稿では、近世初頭に花開いた桃山文化や寛永文化に大きく寄与

した上京の町衆を中心に、またその背景としての法華宗ネットワークについて取り上げてみます。

注 日蓮上人を宗祖として仰ぐ宗派は日蓮宗や法華宗と呼ばれるが本稿では法華宗で記述します。

○京都と法華宗

京都の法華宗は、日像上人（1269年～1342年）の入洛（1294年）に始まります。

日像上人の布教により、当時富商として名高い造酒屋であった柳屋伸興が帰依するなど、法華宗は徐々にその勢力を京都の有力町衆を中心に伸ばしていきます。

注 柳屋伸興四郎衛門は、「柳酒」という酒を醸造し大繁盛します。全盛期には室町幕府の財政を支えるほどの富商でした。法華宗に帰依し妙蓮寺の大檀越となります。同寺の山号「卯木山」は、柳の字を分けたものです。



近世初頭の上京法華宗本山と有力町衆の分布

注 1600年代前半頃の上京法華宗本山と有力町衆の所在地。町衆の所在地は諸寺勅進帳(1576年)等により推定。

元々上京にあった本満寺の他、妙蓮寺、本法寺、本隆寺、本禪寺が再建、豊臣秀吉の命により妙顯寺、妙覺寺、立本寺（現在は七本松通り和寺街道上る）が下京から移っています。これらの寺院には、本阿弥光悦や長谷川等伯等の文化財があるとともに、四季折々には、桜、芙蓉、椿、紅葉等を楽しめ、上京の隠れたビュースポットとなります。是非とも歴史を感じながら散策してください。

その間、山門（比叡山延暦寺）

などの圧力により、何度も寺院の破却、洛外への一時退去を余儀なくされますが、応仁・文明の乱を経て、自衛のため武力を持つようになり、また有力貴族にも支援者を得て（近衛、九条、鷹司など）、1500年代前半には、京都に本山と称される大寺院を21カ寺擁するまでになります。

しかし、天文5年（1536年）、宗論の争いをきっかけに、山門及び六角氏などの連合軍と法華宗が武力衝突した結果、法華宗21本山はことごとく焼き払われ、堺へ退去することとなります（天文法華の乱）。法華寺院と町衆が集住する下京は焼失し、上京も3分の1ほどが焼失しました。

以後、1542年に帰京を許さ

れ、15本山が京都に戻り急速に再建されています。

○法華宗を支えた有力町衆

室町時代の京都では、上京は御所、幕府などがある政治的中心地であつたことから、公家や武家の

邸宅が集中しており、下京は四条通を中心とした商業地区として発達していました。法華宗を支えた

有力町衆は、布教当初は下京に多く、大半の法華宗寺院が下京にありましたが、天文法華の乱により下京全域が焦土と化したことから、比較的被害が軽微であった上京の役割が増えていきました。

呉服の雁金屋、絵画の狩野家、蒔絵の五十嵐家、茶碗の樂家などが上京の法華宗町衆として知られています。

○上京の法華宗町衆

後藤家——彫金師——

室町時代中期より彫金を家業とし装剣金工界に君臨していました。近世初頭には大判・小判の鋳造に関わり繁榮し、茶屋家、角倉家とともに江戸時代初期の京都三長者と呼ばれていました。後藤家一族は上御靈通新町の北東岩栖院町一帯に屋敷を構えていました。現在も後藤辻子に名を残し、庭（擁翠園）が残っています。

織田信長の上洛（1568年）

以降、秀吉、家康と糾余曲折がありながらも世の中が安定するに従い、高級な嗜好品を扱う上京の町衆は、その技術力と政治力を用いて、権門からの需要を独占的に受注するようになります。極めて富裕になつていきました。

本阿弥家——刀劍研師——
室町時代より、刀劍の磨礪・淨拭・鑑定の三事を業として営みました。

分家の本阿弥光悦は江戸時代初期の優れた芸術家、文化人として著名です。本阿弥家一族は小川通五辻西入実相院町一帯に屋敷を構えていました。本阿弥辻子に今も名を残しています。

紋屋（井関家）——織物師——

金工の後藤家、刀剣の本阿弥家、紺灰の灰屋、唐織の紋屋や俵屋、室町時代の京都では、上京は御所、幕府などがある政治的中心地であつたことから、公家や武家の



本阿弥光悦京屋敷跡

紋屋町、紋屋辻子に今も名を残しています。

俵屋（蓮池・喜多川家）

—織物師・絵師—

1597年、明様の綿に、中世以来の浮織技術を加えて唐織を製織したと伝わります。また、絵屋も家業としており、俵屋宗達と関係があるとも考えられています。今出川通小川辺りに屋敷があつたと言われています。

雁金屋（尾形家）—呉服問屋—
高台院、淀君、徳川秀忠夫人などを顧客としていた呉服商であり、尾形宗柏の時代には東福門院の御用を務め栄えました。尾形光琳、乾山の実家であり、小川通中立売に屋敷があつたと言われています。

狩野家—日本絵師—

室町時代中期より江戸時代を通じて続いた日本絵画史上最大の流派である狩野派の宗家であり、狩野正信、元信、永徳、探幽等著名



狩野元信邸址

○上京の法華宗ネットワークと文化の創造

法華宗町衆は相互に婚姻を重ねていました。例えば、本阿弥家は後藤家、茶屋家、尾形家、佐野家と、後藤家は本阿弥家、狩野家という様に繋がっていました。また、彼らは非常に近い所に居住していました。狩野辻子に今も名を残しています。

五十嵐家—蒔絵師—

蒔絵を家業としており、小堀遠州の斡旋により加賀藩に召された五十嵐道甫により、加賀蒔絵が始まりました。今出川新町辺りに居住したと伝わっています。

樂家—茶碗師—

千家十職。手づくねによって成形され、低温度で焼かれた施釉陶器（樂焼）の制作を家業としていました。本阿弥光悦と深い交友があり、また尾形家とは縁戚関係で

要約すれば、これらの上京の法華宗町衆は信仰と血縁、地縁、職華町衆は信仰と血縁、地縁、職縁が重なった強い関係性を持ったネットワークを構成していたといえます。

さらには、この法華宗ネット

ワークは、彼らの教養（能、茶の湯、連歌、書道、華道等々）や顧客を通じて、法華宗以外の有力町衆、公家、武家、文化人のネットワークとも繋がっていました。そしてこれらの繋がり総体が、近

した。油小路通一条下るに屋敷を構え、今日に至っています。

世初頭の文化（桃山文化から寛永文化）の輝きを生み出したといえるのです。

これを体現した巨人の一人が本阿弥光悦でした。光悦は、家職はもちろん、書家（寛永の三筆）を始めとして、さまざまな分野で優れた足跡を残しています。樂家との強い繋がりの中から生まれた「不二山」（国宝）のほか、多くの樂茶碗、五十嵐家との繋がりが考えられる「舟橋蒔絵硯箱」（国宝）などの蒔絵、京都三長者の一つ角倉家の素庵とコラボレーションし制作した嵯峨本、俵屋宗達との共作と伝える「鶴下絵和歌巻」等々があります。

これらの作品群をみても、光悦の優れた感覚と才能はもとより、その背後に彼を取り巻く豊かな文化ネットワークを感じずにはいません。

棟のみです。鎌倉時代後期、後堀河天皇の頃、持明院（仙洞御所）が、北朝方の勢力の中心となり、南朝側を「大覺寺統」、北朝側を「持明院統」と呼びました。その持明院の氏寺でもある安樂光院は、「供養法会」が頻繁に行われたと記録されていきます。「安樂光院」は、豊中世、衰退と再興を繰り返し、豊臣秀吉の都市改造にあたって、京極今出川に移転しています。後に藤原家の筆頭「近衛家」が、すぐ近く所に引っ越してきましたのも、ご先祖様がバツクアップしたお寺ゆかりの地であることが影響したのかとも知れませんね。

★ 「真盛町」

今出川通七本松西入上ル（上七軒）
北野天満宮の東門からすぐ、上七軒の一角を占める町名。町名の由来は、天台宗の高僧で、西教寺を開いた真盛上人（1433—1495）に由来します。町の中心「西方寺」が真盛上人の流れを汲む天台真盛宗（總本山・西教寺）の寺院であるためです。代々、尼



真盛豆（京菓子司「金谷正廣」謹製）



雨宝院（西陣聖天）山門から望む境内

手觀音像が千年の時を経て、戦や大火から、その都度救出され、守られてきました。また、境内は四季折々、多くの花が咲き誇り、特に春の桜は圧巻です。また珍しい「御衣黄」の大きな古木が一本、観音堂の南にあり、4月中旬頃には珍しい黄緑色の花を咲かせてくれます。

僧が住職を継ぐため「西方尼寺」とも呼ばれます。上七軒の芸妓・舞妓達に茶道を指南するのは西方寺住持の務めとされており、北野天満宮の茶会では、西方寺の僧侶と上七軒の芸妓・舞妓が奉仕する姿を拝見することもしばしばです。また、諸説ありますが、真盛上人が修行僧のために作ったとされる豆が、信者達にも評判を呼び、その製法を伝えた西方寺の尼僧によつて代々作り伝えられたとも。豊臣秀吉の時代に北野大茶会でも振舞われて、更に評判を高めたのが「真盛豆」と伝わります。現在は京菓子の老舗（京菓子司「金谷正廣」）で製造され、お茶会や抹茶を振舞うお休み処などでも菓子として、呈されることもあります。緑の衣（粉）で覆われた豆菓子で、繊細に作

られた苔玉の様だという方もいらっしゃるようですし、私は初めて見た時、阿寒湖の「まりも」を連想しました。

★ 「聖天町」

上立壳通智恵光院西入（西陣）

平安時代の初め、嵯峨天皇の御代、空海が創建に関わったという巨大な寺院が西陣の一角を占めていました。その寺院名が「歓喜寺」。西は現在の千本通、東は智恵光院通、北は寺之内通、南は五辻通のあたりまで占めていたと伝わります。

現在「雨宝院」が、この歓喜寺由来の寺院として、今も「西陣聖

天」として人々に信仰されています。「聖天」とは「歓喜天」のことで、「大聖歓喜天」を略して「聖天」といいます。

聖天信仰は、日本全国どこでも土地に根強くあるようで、京都だけでも「西陣聖天（雨宝院）」、「山崎聖天（觀音寺）」、「山科聖天（双林院）」・「嵯峨聖天（覺勝院）」・「伏見聖天（嘉祥寺）」・「錢司聖天（聖法院）」などが知られています。歓喜天が

荒ぶる神だった頃、觀音菩薩がうで導いたことから、聖天信仰と觀音信仰は表裏一体、切つても切れないと関係です。そのため、雨宝院では平安時代中期の立派な千手觀音像が千年の時を経て、戦や大火から、その都度救出され、守られてきました。

★ 「上塔之段町」と「下塔之段町」



「下塔之段町」の様子

塔之段通今出川上ル（相国寺東）
「幻の塔」ともいうべき相国寺
の大塔。足利義満が、父義詮の三
十三回忌供養のため応永6年（1
399）に建てたとされる七重塔
です。高さが360尺（109m）
であったと伝わりますので、もし
現存していれば、最も高い木造の
塔である東寺五重塔（55m）の倍
の高さということになります。残
念ながら、建立から4年、応永10
年（1403）に、落雷により焼
亡。その後北山（現在の鹿苑寺境
内）に再建されましたが、応永23

年（1416）に再び炎上。この
時は9日間燃え続けたと伝わりま
す。しかしその後、元の地に三代
目の塔が建てられました。文明2
年（1480）に焼亡するまで、
相国寺の大塔は都の象徴として、
世の人々に知られていました。

現在、町内はほぼ住宅街で、付
近には「相国寺」境内をはじめと
して、「伏見宮墓所」や「薩摩藩
士の墓」、同志社女子大学等、閑
静な地となっていますので、とて
も天空に聳える塔があつたとは信
じがたい環境です。

年（1416）に再び炎上。この
時は9日間燃え続けたと伝わりま
す。しかしその後、元の地に三代
目の塔が建てられました。文明2
年（1480）に焼亡するまで、
相国寺の大塔は都の象徴として、
世の人々に知られていました。

お寺の創建は古

く、平安時代初期、
小野篁が開基と伝わ

ります。それまで一
般庶民の葬送が、風

葬や鳥葬が殆どで
あつた頃、小野篁は、

蓮台野や船岡山に散
乱していた人々の亡

骸を丁重に地中に埋
め、その上に目印と

して卒塔婆を建てた
とされ、それが墓標

となつたと伝わりま
す。御住職のお言葉
をお借りしますと、

「小野篁は、都の衛
生上の環境を整える
ことを考えて葬送地

を整備したので、平
安京の厚生労働大臣

にあたります。」そ
の卒塔婆が数多く
建っていたことから

して「千」ではなく、数が多いと
いう意味合いが強いようです。

千本といふのは、正確な数字と

★ 「下塔之段町」

★ 「閻魔前町」

千本通鞍馬口下ル
(千本ゑんま堂)

通称名「千本ゑんま堂」、正式

名称は「引接寺」。「引接」とは「引
導」と同じ意味で、亡くなつた方

をあの世に導く役を果たす閻魔さ
んをまつるお寺であることが、双

方の名から連想できます。御本尊
が閻魔大王というお寺は非常に珍
しく、また御本尊は、丈六仏であ
り、坐像でも見上げる程の大きさ

です。

今回紙面登場の町名 エリアを確認



画像協力：上京区役所



小野篁立像(引接寺 篠堂)

新上京の昔ばなし

大報恩寺のおかめ塚

らずに訪れた参拝者をがつかりさせた。その光景を見やるおかめさんが寂しそうに見えたのは筆者の思い過ごしか。

師走の風物詩 大根焼き

直径1メートルはあるかという大鍋に、大根と油揚げを醤油と昆布出汁でほかほかに焼き上げて、参拝者に振る舞う大根焼き。古くからこれを食べると中風にならないご利益があると言われる。

お釈迦様がブッダガヤの菩提樹の下で、悪魔の誘惑に負けず夜明け前の明星出現と同時に悟りを開いた12月8日を成道会（成道＝悟りを開くこと）といい、この日にあやかり同日前後に多くの寺院で催される大根焚きは、師走の京都の風物詩になっている。

中でも京都市街地で現存最古の木造建築物である国宝本堂や「おかめ塚」で知られる大報恩寺のそれは、新聞やテレビニュースにもし

ばしば取り上げられてきた。第三世慈禪上人

の頃、法要

の度に4本

の大根を縦

半分に切つ

て8本とし、

切り口に釈迦の種子（梵字）を書

いて供え、参詣者への悪魔除けとされたのが始まりで、いつしか他の大根と一緒に焼き上げる今日の

大根焼きになったといわれ、諸悪

病を取り除き健康増進を願う信徒たちの手で、毎年12月7、8日の両日盛大に振る舞われてきた。

ところが令和2（2020）年

は新型コロナウイルス感染の影響

で一変、大根焼きは中止され、知



大根の授与所

せんぼんの釈迦念佛は

大報恩寺は瑞雲山と号し、本尊は秘仏の「釈迦如来像」。真言宗智山派に属する名刹だが、一般には通名の千本釈迦堂の方が親しまれている。第31代用明天皇（生年不詳—587?）が勅願道場として開創したと伝えられるが、その後廃滅していたのを鎌倉時代の承久3（1221）年に藤原秀衡（1222?—87）の孫義空上人（1711—1241）が再建、開山した。

承久3年といえば、源実朝が源頼家の子公暁に殺され、源氏将軍が断絶、執権政治が確立して2年後。承久の乱が勃発、六波羅探題が設置され、後鳥羽上皇が隠岐に配流されるなど波乱の年だった。

千本釈迦堂の名は第二世如輪上人（よりんじょう）『せんぼんの釈迦念佛は、文永の



千本釈迦堂

京都に生まれて五世紀



虎どらや

www.toraya-group.co.jp

現代語訳すると『千本釈迦堂で「南無釈迦牟尼仏」と念佛を唱える仏事は、亀山天皇の時代（1264—75）に如輪上人が始めたものだ』とある。

大工の棟梁の妻おかめ

この大報恩寺境内に建つ「おかめ塚」。ふつくらとした愛嬌のあるお顔で、参詣の人たちを温かく見守っているが、どうしてここにおかめ（阿亀とも書く）さんの像があるのか。それは同寺建立の際の物語りに遡る。

義空上人は比叡山の澄憲（1126—1203）から天台密教を

学び、天台・真言・俱舎三宗兼学の道場として大報恩寺を建立しようとしていた当時、猫間中納言と呼ばれた公卿の権中納言藤原光隆の従者だった岸高という人物から境内地の寄進を受け、そこに仮堂を建てて釈迦如来像と十大弟子像を安置した。

その後、貞応2（1223）年



おかめ塚

層心の優しい女性だったとか。そんな妻のお陰もあって、高次の人望も厚かつたようだ。

建築する本堂は正面の桁行五間、側面の梁行六間、正面に一間の向拝、入母屋造の檜皮葺き。信者が堂内で釈迦念仏を唱える道場として外陣を広くとり、内陣の中にある四天柱に囲まれた内々陣に須弥壇を設け、ご本尊

あつた。材木商が目を覚まして調べると、大報恩寺の刻印が打たれていた材木があつたので、取り急ぎ大報恩寺の仮堂に詣つたところ、夢の老僧が十大弟子の一人迦葉尊者と同一人だと分かり、その木材を寄進することにした。

現代ではこれより大きい寺社建築物は、例えば東西本願寺や知恩院のそれと比較すれば分かるように、それほど珍しくないが、鎌倉時代初期においては周辺を圧する巨大なものであつたのだろう。

斗拱を使つたらと助言

柔道圓心道場

〒602-0014
京都市上京区室町通寺之内上ル下柳原北半町 210
TEL (075) 441-1968 / FAX (075) 441-2972

山崎接骨院

〒602-0898
京都市上京区烏丸通寺之内西入上ル相国寺西門前町 647
TEL (075) 451-6050 / FAX (075) 451-6051
<http://www.enshin.sakura.ne.jp/>

新・古茶道美術品
清昌堂
やました

京都本店・京都市上京区小川通寺ノ内上ル

〒602-0061 TEL (075) 431-1366
FAX (075) 431-1370

<https://seishodo.com/>
お気軽にお問い合わせください

弟と共に精魂をつぎ込んで作業に

取り組んでいたが、好事魔多し、大事な四本柱の一本の寸法を誤り、短く切り落としてしまった。長く切ったのだったら再度切り直せばよいが、短いものを元に戻すこと出来ない。

どうしてこんなことをしてしまったのか。代わりの木材を探そうとしても、信者から奉納された同じものが安易に見つかるはずもない。工期も次第に迫ってくる。

苦悩する高次の姿を見て、おかめは「いかがなされたのですか」と声を掛ける。高次から事の次第を聞かされたおかめはご本尊の釈迦如来に、高次のために自らの命も惜しまずに願掛けをして、ひたすら祈り続けた。どれほどの日数が経つただろうか、おかめは厨子の中に「斗棋」を膝に抱えて光輝くご本尊のお姿を見たのだった。まさにお導きといえよう。

早速おかげは高次に短くなつた柱の短所を補うため斗棋を組むの

はどうかと話しかけた。

これは四本柱を短く切り落としたものと同じ長さに切り揃え、柱の上部に斗棋を組み付けるという手法だ。高次がおかげの助言を取り入れて工作に励むと、緩やかな傾斜を支える屋根裏はどっしりした安定感を持つことが分かり、これによつて本堂建築は遅れを取り戻すことができたのだつた。

ところで斗棋は「ますがた」ともいう建築用語。木造の寺院建築などで、斗と呼ぶ舟形の肘木を一組として、建築物の桁や梁に掛かる上部の荷重を支えて柱に伝える役目を持つ。米や酒の杓は正方形だが、斗には正方形と長方形がある。

釘やボルト、接着剤などは使わず、木材で作られた各パーツを立体パズルのように強固に組み上げる。斗組や組み物とも呼ばれる。

もともと中国で開発、工夫された手法で、中国文化の影響を受けた日本では上下前後に何層にも組

み重ねる形式が出現するなど、様式・年代によって特徴があり、建築構造物としてだけでなく装飾の役割をも兼ねている。

夫の名声守るため自害

おかげの助言により本堂は無事完成。安貞元（1227）年12月26日、念願の上棟式が盛大に行われた。義空上人が記した棟札が棟木高く掲げられ、その上部にはおかげに因んで、優しい笑みを浮かべる福の面が扇御幣に付けて飾られた。斗棋も至るところに組み付けられている。

「おかげの助言があったからこそ、高次は感慨深げにつぶやいたが、おかれと一緒に上棟を祝うことは叶わなかつた。

おかげは高次の難局を救つたにもかかわらず、「建築に全く関りのない女房の助言に救われて、名匠の誉れが高い夫が本堂大工事を成し遂げたなどと世間に知られ



紀元前3000年頃。パンのシンボルが描かれ、食料配給の割り当てが記録されている。

W 和光印刷株式会社

〒602-0012 京都・烏丸通上御霧前上ル TEL.075-441-5408代

E-mail:info@wako-print.co.jp

東京証券
鶴屋吉信
<http://www.tsuruyayoshinobu.jp>

http://www.tsuruyayoshinobu.jp

草菓物
袖
餅

ば、名譽を汚し信用を失うのでは
ないか」と悩み、「夫の名声に我
が身を捧げよう」と式の前日に自
害して果てたのだった。

『高次は上棟の日亡き妻の面を
御幣につけて飾り冥福と大堂の無
事完成を祈ったといわれ、また、
この阿亀の話を伝え聞いた人々は
貞淑で才智にたけた阿亀の最期に
同情の涙を流して菩提を弔うため
境内に宝篋院塔を建立し、だれ言
うとなくこれを「おかめ塚」と呼
ぶようになつた』と、同寺の駒札
は由来を物語つている。

おかげが自害せずに上棟の日を
迎えていれば、後世にその名を残
していくだろうか。また「おかげ
信仰」が全国に広まつただろうか。
夫の名譽を守るため我が身を捧
げたおかげ。これが「女性の徳」
の象徴と崇められ、江戸時代中期
には「おかげ招福信仰」が全国に
広がつていったといふ。

現在でも上棟式で「おかげ御幣」
や「おかげ面」が飾られるのは、
現在でも上棟式で「おかげ御幣」

その徳を偲び、永久に保つような
頑丈な建物となり繁栄を祈るために
とされる。

2月におかめ福節分会

昭和26（1951）年の本堂解
体修理時に、義空の願文が発見さ
れ、本堂は安貞元（1227）年
の上棟であることが判明。中に安
置されている重要文化財の行快作
の木造釈迦如来坐像や、快慶等の
作になる木造十大弟子立像は本堂
開創当時のまま伝えられている。

その後応仁元（1467）年か
ら文明9（1477）年まで11年
もの間続いた応仁の乱などから、
本堂だけは奇跡的に焼失を免れ、
京洛最古の建造物として昭和27（1
952）年に国宝指定を受けた。

おかげ像前の僧侶読経に続いて
本堂では番匠保存会による木遣音
頭、上七軒の舞妓による踊りの奉
納、茂山社中による節分の狂言や、
厄除け鬼追いの儀として豆まきが
行われる。

本堂の前には「おかげ桜」と呼
ばれる木が育ち、その後1カ月も
すれば巨大な枝垂桜は噴き出すよ
うに花をつける。新型コロナウイ
ルス感染禍の中でも京の春の訪れ
は近い。

（福井 和雄）



茂山社中による狂言

京都市指定

水を大切に... (24時間・年中無休)



水道・下水道修繕工事(空調)・井戸ポンプ設備・建物リформ

大西工業株式会社

〒602-8072 京・上京区中長者町通新町西入 TEL.(075)451-3123 FAX.(075)432-2874

0120-350672

消防設備全般

上京の辻子

「白梅の辻子」

(河原町通寺町間今出川下る二筋目東西道)



市電が河原町通を通り、いた頃、この通を東へ出たところに「白梅の辻子(白梅団子)」と云う電車の安全地帯の停留所が一段高がありました。

幕末頃に丸太町猪熊辺りにあった京都所司代の拡張に伴い、その附近の住民が代替地としてこの地に移ってきました。のちに「新夷町」と名付けられます。

しばらくして煮売茶屋が出来、その後花街として賑わいましたが、明治七年に茶屋営業差止めの布令が出て消滅しました。そして現在の平穏な住宅街になっています。

この地には「梅忠社」というのがあったそうで、そこには「白梅」という絶世の白拍子が居たようですが、いつしか誰も云ふなく「白梅の辻子」と呼ばれるようになりました。

ちなみに、茶化して「風の辻子」と皮肉られて呼ばれることもあつたそうです。

また、「筋北通は「東雲の辻子」と呼ばれていました。

NPO法人 都草 山本 喜康

kamigo EVENT kamigo EVENT kamigo EVENT kamigo EVENT

「みんなで花を咲かそう」活動ボランティア募集



上京区役所前の花壇は、ボランティアの皆様に、毎日水やりや手入れをしていただいています。また、年に2回、季節の花々に植替える「一斉植替え」を行っています。

興味をお持ちの方は、電話、FAX又は窓口(1階①番窓口)にてお申し込みください。

対象:区内在住の18歳以上の方(高校生除く。)

問合せ:上京区役所地域力推進室(まちづくり推進担当)

TEL 075-441-5040 FAX 075-441-2895

表紙写真

大報恩寺(千本釈迦堂):阿亀桜(京都市上京区七本松通今出川上ル)

撮影:京都写真家 水野克比古氏

大報恩寺は、鎌倉時代初期の承久3年(1221年)、求法上人義空によって創建された寺で、千本釈迦堂とも呼ばれている。境内には、本堂建築で棟梁を務めた長井飛騨守高次の妻「阿亀(おかめ)」に因んだ「おかめ塚」や「おかめの銅像」、そして「阿亀桜」と呼ばれる枝垂れ桜がある。

阿亀は本堂の建築中に困っていた高次に助言、結果として無事に本堂が完成するが、「妻の知恵により大任を果たしたと知れではならない」と上棟式を前に自害してしまった。高次は阿亀のふくよかな笑顔に因んだ福面を扇御幣に飾って冥福と工事の無事を祈ったといい、これが現在のおかめ信仰にもつながっている。

【広告主募集中】本誌に広告を掲載しませんか?

「上京-史蹟と文化」に有料広告の掲載を希望する広告主を募集します。

商品のPRや企業のイメージアップに、ぜひご検討ください。

問合せ:上京区役所地域力推進室(まちづくり推進担当) TEL 075-441-5040 FAX 075-441-2895



京都人さえもが恋するホテル。



〒602-8071 京都市上京区新町通中立売（御所西）
TEL.075-441-4411（代）FAX.075-431-2360
<https://www.brightonthotels.co.jp/kyoto/>

「上京・史蹟と文化」は上京区役所地域力推進室まちづくり推進担当で販売致しております。
また、上京区役所のホームページで御覧いただけます。

（TEL 441-5040）

(東洞院通)
大丸さん北隣のよろず屋 四条店では
**時計・貴金属
高価買取実施中!**
鑑定書なしでも高額査定!

グループ創業70年の信用と安心

ブランド品 販売・買取 **(株)よろず屋**

京都府公安委員会許可 古物商 第11061号

Anti Trading Fakes ATF「全国性質 ブランド品偽物」認定店

本店 地下鉄「今出川駅(6番出口)」隣 0120-25-0700
10:00~19:00(土曜は18:00迄) 固日曜・祝日 **P10台有**

四条店 地下鉄「四条駅(20番出口)」すぐ Tel 075-241-7900
10:00~19:00 大丸京都店 北隣(東洞院通) **年中無休**

•FGA(英国宝石学協会)認定資格者がおります。•公共機関の鑑定士もつとめています。



- 神学部
- 商学部
- スポーツ健康科学部
- 文学部
- 政策学部
- 心理学部
- 社会学部
- 文化情報学部
- グローバル・コミュニケーション学部
- 法学部
- 理工学部
- グローバル地域文化学部
- 経済学部
- 生命医学部

Doshisha University
 同志社大学
<https://www.doshisha.ac.jp/>



お問合せ先 同志社大学 広報部 広報課 TEL:(075)251-3120

元祖
ぼたん鍋と
京料理

火
か
く
京・上御靈前鳥丸西
二〇七五・四四・〇六二〇代



創立以来八十六年にわたりて、

和やかな家庭的な雰囲気を包まれつゝ、就学前教育の本流をめざして、保育を続けて参りました。幼児たちは、楽しい遊びを通して、人生に必要な生きる力をすべてを手にします。

学校法人 北野幼稚園

京都市上京区御前通一条下る (北野天満宮バス停下車南100m)

TEL.463-0111(代)
<http://www.kitano.ed.jp/>

「たのんでよかった！」

皆様のそのひとことを目指した住まいづくりを心がけております。



西陣の大工さん
みずほ工務店

TEL.075-204-8283

<http://www.mizuho-koumu.com>

京都市上京区上立売通淨福寺西入上る真倉町752

表紙題字／吉川蕉仙氏

表紙写真／大報恩寺(千本釈迦堂)：おかめ桜 水野克比古氏

本田味噌本店

西京白味噌。

<http://www.honda-miso.co.jp>

山田松香木店

〒600-8014
京都府京都市上京区勤解由小路町164
TEL (075) 441-1694
FAX (075) 441-1124

香木・薰香・匂香



Male
BRANCHE
京都 北山

洋菓子

マールブランシュ 京都 北山本店

〒603-8053 京都市北区北山通植物園北山門前
TEL (075)722-3399 · FAX (075)702-9440
9:00AM-8:00PM 年中無休 (喫茶10:00AM-8:00PM)
www.malebranche.co.jp

商品予約専用フリーダイヤル **0120-668-399**

単なるデリバリーカンパニーでなく、
人や企業の信頼を結ぶ運送会社です
どんな内容もまずご相談を!

商品のお預かりから梱包作業、配送まで

封入作業・ダイレクトメール(DM)配送・郵便出荷代行

機密書類の溶解処理

ルート配送・チャーター便(軽貨物~4t車まで)

引越サービス

デリバリーサービス
株式会社

近畿商二第186号(社)京都府トラック協会会員

株式会社 デリバリーサービス

〒604-0907 京都市中京区河原町通竹屋町上ル大文字町238番地

TEL(075)662-8255 / FAX(075)662-8257

<https://delivery-service.jp/>



20080584